



明化の教育

9月号(第503号)

令和4年9月1日

文京区立明化小学校

校長 熊倉 勝

思いを「カタチ」に～姿で示す～

校長 熊倉 勝



校舎改築工事の仮囲いが、本校校舎の歴史で飾られています。ご来校される際にぜひご覧ください。

「3年ぶりに・・・」この夏に数多く聞いた言葉です。新型コロナウイルス感染症の感染者拡大が抑えられず、心配は尽きない中、行動制限が行われなかったため、この2年間中止になっていた様々な行事“夏の風物詩”が再開された夏でもありました。本校の地域でも大原青少年健全育成会の「合同ラジオ体操会」と「大原盆踊り大会」が3年ぶりに実施されました。私も初めて参加しましたが、子供たちが楽しみ、終わった後の笑顔が忘れられません。コロナ禍の中で開催を決断するに当たっては思い悩まれたことと推察しますが、子供たちのために方法を工夫してくださり、“感謝”

の一言に尽きます。正に子供たちに対する思いを「カタチ」として残してくださり、子供たちにとって夏の思い出の一つとして強く心に刻まれたことと思います。

「3年ぶり」というと、「夏の甲子園」全国高等学校野球選手権大会も、3年ぶりに有観客で行われました。テレビでご覧になった方も多かったのではないのでしょうか。数多くの熱戦の中で、私が印象に残った場面がありました。それは、春夏連覇を狙った優勝候補大阪桐蔭高校と下関国際高校との準々決勝の試合後に見られた光景です。九回逆転負けを喫した大阪桐蔭高校の監督が、球場から引き上げようとした下関国際高校の監督のもとへ歩み寄って自ら握手をしたのです。球場のファンからは、どよめきと拍手が起りましたが、敗戦で涙に暮れる大阪桐蔭高校の選手たちはどんな思いでこの様子を見ていたのでしょうか。選手一人一人の思いは様々でしょうが、その姿を見て監督の思いを感じ、気持ちを切り替えることができた選手もいたに違いありません。人の心や思いは直接見えないものですが、その思いを行動として「カタチ」にすることで、相手や見ている周りの人に伝えることができる。言葉だけでなく、姿で示すことが人の心を動かすということを改めて感じた素晴らしい一場面で、私自身も感動をいただきました。子供たちも同様に、一人一人がこの夏の大切な思い出を胸に新たな気持ちで9月1日、2学期始業式の日を迎えたことと思います。

さて、2学期が始まり、明化小学校に子供たちの元気な笑顔あふれる姿が戻ってきました。夏休みの貴重な体験を経て、子供たちは一回り大きく成長し、頼もしさを感じます。私たち大人は、子供たちの笑顔から元気をもらい、新たな活力を生み出します。そして、子供たちは、大人の姿を見て自然と学びます。このような双方の良好な関わりが信頼関係を築き、子供は安心して学び、豊かな心を育てていきます。子供たちのよりよい成長のために、大人が“姿で示す”ことを大切にして、教職員一同、力を合わせて教育活動を進めて参ります。今学期も本校の教育活動へのご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

夏休み中に仮設校舎の工事を行い、1階の保健室の場所に普通教室を1つ増設しました。そのため、保健室が横にずれ、従来の事務室と主事室の場所となり、事務室を2階に移動しました。

